▼幹事会▲

当社の幹事は、氏子の各組合から神社の一年間のお世話をいただく方々で、その数は二〇〇名に及ぶ。

毎年、四月二十九日（みどりの日）午前十時から当社の拝殿において、幹事会が行われている。

幹事会は、冒頭に幹事就任奉告祭を執行し、神社の予算、決算概要の説明と神社の歴史や一年間の祭典、行事に関わる幹事の仕事の説明などが行われる。

また、この場において、十年以上に亘り奉仕を頂いた総代と幹事に、神社の規定により感謝状と記念品が授与される。

幹事就任奉告祭に参列する幹事

感謝状を授与される幹事

▼七五三詣で▲

古来、赤子は男女とも頭を青く剃り、三歳の誕生日になって初めて髪を伸ばす風習があり、もう赤子ではないという意味で、これを「髪置き」といった。

江戸時代になると、五歳になった男の子はその年の十一月十五日に「袴着」といって初めて袴をはいた。女の子は七歳になると、それまでの紐付きの着物にかわって、帯を締めた。これを「紐落し」・「紐解き」などといった。

以後三歳「髪置き」、五歳「袴着」、七歳「紐落し」になった子供が神社へ参る「七五三詣り」が広く行われるようになった。

当社においても、十一月十五日を中心に着物や洋服で着飾った子供たちの七五三詣りで社頭が賑わいを見せる。

七五三詣でで賑わう社頭

三歳で七五三詣りをする子供

▼神前結婚式▲

神前結婚式は、明治三十三年、当時の皇太子殿下（後の大正天皇）と九条節子姫（後の貞明皇后）のご成婚が初めて皇居内の賢所（神前）で行われた事に始まる。

当社においても、神前結婚式が執り行われている。

拝殿での結婚式を終えて記念撮影を行う新郎新婦と参列者

▼まちかど探検▲

早島小学校二年生では、生活科「町たんけんをしよう」の学習で毎年児童が訪れている。

平成二十年度は、六月二十六日に十二名が二グループに分かれて、神社の施設を見学し、参拝の作法や順序、神様や祭りの話を聞いて、郷土の歴史を学んだ。

宮司から神社の施設の説明を受ける児童

▼境内の樹木▲

当社の境内には、檜、杉、松、榊を始め様々な樹木が植えられ神社の社叢（しゃそう）を形成している。

その中でもとりわけ大きく目を引くのが、境内上段にある「アクラ」の木である。樹齢は数百年と推定され、秋になると赤い実をつけ、神社の神木として、守られている。

満開の桜と御霊神社

新緑の楠

楠と樫が一体となった縁結びの木

神木のアクラ